

老健施設における 認知症BPSDへの対応

2024年度の介護報酬改定で新設された「認知症チームケア推進加算」は、認知症の行動・心理症状であるBPSDの発生を予防したり、早期対応をチームで行う体制を評価する。少子高齢化が進むなかで認知症への対応力向上は必須であり、本人の尊厳を守ることにつながる。

BPSDのチームケア対応のヒントとして、本特集では、同加算の算定要件の1つに該当する東京都の「日本版BPSDケアプログラム」を中心に取り組みをご紹介します。

同プログラムの開発者と、同プログラムを利用してBPSDに対応する老健施設取材した。

インタビュー

認知症チームケアを推進するプログラム 実践者を8時間で養成し 在宅・施設で展開

西田淳志さん

東京都医学総合研究所 社会健康医学研究センター センター長
東京大学大学院 教育学研究科 客員教授



レポート



BPSDの背景要因をとらえ チームでケア 発症の予防にもつながる

介護老人保健施設リハビリケアかつしか(東京都)